

紙ごみをリサイクルに出そう

昨年度、市では家庭からどのようなごみが燃やすごみに出されているかを調べました。調査の結果、生ごみの次に多くを占めていたのが、リサイクル可能な紙ごみでした。具体的には、新聞紙、雑誌、紙パック、ダンボール、雑がみ類です。

■捨てていませんか？雑がみ類

調査によると、リサイクル可能な紙ごみは、燃やすごみ全体の 16.9%を占めていました。中でも雑がみ類が多く捨てられています。

雑がみ類とは、紙箱、厚紙、紙袋などのことです。

雑がみは、食品や日用品などの包装に多く使われており、生活の中で多く出てくるので、分別してリサイクルを進めることで、ごみを減らすことができると考えられます。

■どうすればリサイクルできるの？

雑がみ類は、市が行う行政回収では、ダンボールにはさみ込み、ひもで縛って地域の「古紙・衣類の集積所」へ出すことができます。収集日は、月2回程度です。

雑がみのほか、新聞紙、雑誌、紙パック、ダンボールなどの資源物は、市が行う行政回収以外にも、自治会やPTA活動などによる集団回収、スーパーやドラッグストアの店頭で回収を行う店舗回収も実施されています。

■さまざまな回収を活用し、リサイクルを進めましょう

店舗回収は、買い物のついでに活用でき、土曜日や日曜日でもお店が開いているときであれば出すことができるなどの利点もあり、資源物回収の重要な方法の一つとして回収量も増えていきます。

紙をごみとして廃棄するのではなく、さまざまな機会を利用して資源物として回収できるよう、ご協力をお願いします。